今月のトピックス

特集

会社訪問 -No.45
株式会社トランスウェブ 様

成長の原動力となった「差別化対策」
欧州の物流に学びながら物流改革に挑む

千葉県富里市に本社を構える株式会社トランスウェブ（前沢武代表取締役社長）は、平成 13 年に設立されてから 20 年あまりの間、事業規模を拡大し、成長を続けてきた。

同社の成長の決め手となったのは「同業他社との差別化」であり、欧州製の大型トラクタの導入やイメージ戦略の強化などの対策を継続的に実施。それとともに、「物流を支えているのはドライバー」との考えから、従業員満足度向上への取り組みも強化している。



スカニア社のトレーラの前に立つ前沢社長。同社では平成 16 年に、同社製車両の導入を開始している

■「経営が持続できるのはドライバーあってこそ」従業員満足度向上にも力を注ぐ

㈱トランスウェブは、平成 13 年に前沢社長によって設立された運送会社で、大型トランスポーターによる車両のチャーター輸送や海外製高級車の新車輸送、レーシングマシン輸送、映像機材・音響機材・舞台装置の輸送、輸送車両の開発、海外製高級車の PDI（自動車納車前整備）など、多彩な業務を展開している。

同社設立以前、前沢社長は輸入車販売事業に携わっていたが、高級車両やレーシングマシンを輸送するトレーラの魅力にはまり、11 年にレーシングマシンやイベントの機材などを運ぶ運送会社のトレーラドライバーに転身。その２年後、その運送会社がモータースポーツ事業を売却するにあたり、その部門を譲り受ける形で 13 年に同社を設立した。

設立当時は、従業員７人、中古トラック７台という規模で、駐車場は砂利敷き、社屋はトレーラハウスという、まさにゼロからのスタートだった。同社において設立当時からの課題となっていたのは、「同業他社との差別化」だったという。同社では、前沢社長の輸入車販売で培ってきたノウハウを活かし、高価でリスクを伴う高級車輸送を専門に事業を展開。高品質な輸送サービスを提供することで、同業他社との差別化に繋げてきた。

前沢社長が事業を展開していく中で最も大事にしてきたのは、「高級車両輸送を担う運送会社としてふさわしいイメージ戦略」だという。同社では 16 年から、当時はまだ日本国内であまり知られていなかったスウェーデンのトラックメーカー「スカニア」の車両をいち早く導入。現在、同社が保有する 70 台のトラクタは、全てスカニア社製になっている。

「スカニア社の車両の導入を進めることで、当社のネームバリューを上げていくことが、導入の狙いです。欧州では日本よりも長距離の運用が多いため、長距離運転でも疲れにくく、乗り心地に優れ、キャビンの居住性が高いスカニア社のトラクタを導入することで、長距離ドライバーの労働環境改善に繋げています。また、日本国内ではなかなか乗務する機会の少ないスカニア社のトラクタに乗れることが、ドライバーにとってモチベーションアップになっているようです。当社の車両は白一色で統一しているほか、PDI センターの外壁や内装、作業スペースなどにも、白を多用しています。当社では様々な高級車を扱っているため、そのブランドイメージを損なわずに、その車が一番輝いて見えるようにと考えています。『高級車両輸送を担う運送会社としてふさわしいイメージ戦略』に磨きをかけていくことで、お客様に良いイメージをもっていただけるようになりました」（前沢社長）



前沢　武　代表取締役社長

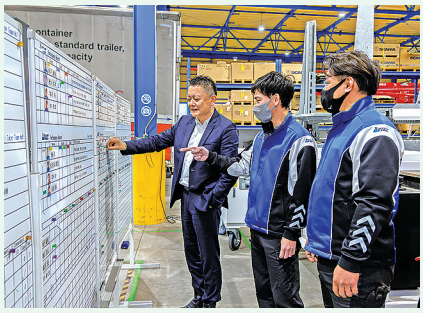
海外製高級車やレーシングマシンなどを事故なく輸送するために、同社では安全対策にも力を入れている。

同社の運送部に所属するドライバーは、業務内容によって１チーム４人のグループに分けられている。それぞれのグループは、チームリーダーを中心に頻繁にミーティングを実施し、情報共有を図る。海外製高級車のニューモデルが出た際には、ドライバーの教育係である職長がニューモデル車の情報を調査し、車のサイズや輸送の際の注意点などをマニュアル化して、グループに提供。グループ内で情報を共有することで、安全性向上を図っている。

「キャリアカーに積載する車の情報をよく理解しないまま作業を行ってしまうと、お客様の大切なお車を傷つけることにもなりかねません。『プロドライバーとして知っておくべき事項を知らなかったから、事故を起こしてしまう』のです。当社では、『情報の共有は安全の共有』と位置づけ、お客様の大切なお車を安全・確実に輸送するために、常に



積載する海外製高級車のブランドイメージを大事にするために、トラックの車体色は白で統一



輸送部に所属するドライバーの業務品質が一目で分かる、班ごとのホワイトボード



乗務を終えて営業所に帰ってきたドライバーを温かく迎える、手書きのメッセージボード

最新技術や知識を研究するとともに、それをグループ内で共有させることで事故防止に繋げています」（同）

なお、同社ではグループごとのホワイトボードに、各ドライバーの目標を毎月明記。日々の業務を通じて、各自が立てた目標が達成できているか評価を行い、加点・減点していくという評価制度が採用されている。なお、このホワイトボードは誰でも見ることができるため、ドライバー自身の反省・奮起に役立っているという。

さて、トラック運送業界では「2023 年問題」「2024 年問題」への対応が喫緊の課題となっている。同社では、ドライバーへの待遇のベンチマークを欧州に置いている。欧州の運送会社は、日本とは比べ物にならないほど、労務管理が厳しく、またドライバーの生活に配慮しながら事業を進めている。同社においても、デジタルタコグラフを有効に活用し、労働時間の適切な管理を図っている。

「時間外労働が制限されるようになる中で、当社ではドライバーの１月当たりの時間外労働時間を 60 時間以下に抑えることを目指しています。デジタコを活用しながら、限られた時間の中で効率よく、高品質な輸送サービスをお客様に提供していくことで、利益増を図るとともに、給与アップなどドライバーの労働環境改善に繋げていきたいと考えています」（同）

同社では、「会社の経営が持続できるのは、現場で汗を流しているドライバーあってこそ」という考えの下、ドライバーの満足度向上への取り組みも強化している。先に紹介した評価制度において、優秀と認められた従業員を、同社では年に１度海外に派遣している。同社の従業員には、スカニアの工場があるオランダからデンマークを経てスカニア本社のあるスウェーデンまで走行するトレーラに横乗りさせ、日本とは異なる欧州のトラック輸送の現場を体験させている。

「日本の物流スタイルは、欧州から 10 年ほど遅れていると感じています。欧州では輸送効率の高いトレーラが日本よりも普及しているほか、荷物の積み下ろしの手間も大きく軽減されています。現地で実際に見ないことには、日本の先を行く欧州の物流事情を知ることができません。欧州の物流スタイルを一度経験させると、ドライバーの日々の業務に対する意識も大きく変わってきます」（同）

また、乗務を終えて営業所に帰ってきたドライバーを温かく迎えるために、女性事務職員による手書きのメッセージボードを設置したり、終了点呼を行う点呼場にお菓子を置いたりしている。同社の東京営業所（富里市）では、「出庫点呼は事故の抑制、終了点呼は離職の抑制」をスローガンに定めるなど、ドライバー思いの職場づくりを徹底することで離職防止に繋げている。

前沢社長には、一つの大きな夢があるという。それは、東名高速道路大井松田インターチェンジの近くに新たな輸送拠点「関東ゲート」を設けることである。

「長距離輸送にあたるトラックドライバーの多くが、自分の時間がなかなか持てないという悩みを抱えています。当社としては、『せめて会社にいるときには、従業員にいい思いをしてもらいたい』と考えています。大井松田 IC から先の東京方面は渋滞することも多いため、大阪方面からやってきた長距離ドライバーはハンドルを握っていても心が重くなります。関東ゲートに中継輸送拠点の機能を持たせ、関東の地場輸送のドライバーが輸送を引き継ぐことで、長距離ドライバーの負担軽減が実現します。また、ドライバーが休息できるように宿泊所を設けたり、管理職従業員との交流の場を設けることなども考えています。『インスタ映えする』運送会社を目指すことで、人材不足解消に繋げていきたいと考えています。一方で、『2024 年問題』はトレーラ活用による中継輸送実現への大きなチャンスになると考えています。物流改革は自分一人だけでできるものではなく、業界全体で考えていかなければなりません。当社の取り組みをもっと多くの皆様に知っていただき、業界を盛り上げていきたいと考えています」（同）

ホットにゅーす

■従業員 12 人が襷を繋ぐ 1 万 3000km 超に及ぶユーラシア大陸横断を敢行

同社では平成 30 年に、全走行距離約 1 万 3000km に及ぶ、スカニア社の大型トレーラ２台によるユーラシア大陸横断を敢行した。

オランダで納車したてのトラクタとトレーラで、30 年 9 月 19 日にオランダ・ベーストをスタート。前沢社長をはじめ同社の従業員 12 人がリレーし、1 か月後の 10 月 22 日に同社本社に到着した。

「１か月にわたるこの体験は、私にとっても非常に貴重なものでした。機会があれば、志を同じくする多くの運送会社の皆様と一緒に、もう一度大陸横断にチャレンジしたいと考えています」（前沢社長）



オランダからドイツ、ポーランド、リトアニア、ラトビア、ロシアを横断し、日本の同社本社まで約 1 万 3000km を移動した同社のトレーラ

企業プロフィール
株式会社トランスウェブ
代表取締役社長　前沢　武
本社　千葉県富里市美沢 8-5
従業員　300 人（うちドライバー 150 人）
台数　140 台